



### 2023/2024 シーズンのインフルエンザ

2023/2024 シーズンは定点当たり報告数が 1.00 を上回った状況で始まりました（図1 中折れ線グラフ）。シーズン開始時の 2023 年第 36 週（9 月 4 日～10 日）には既に定点当たり報告数は 5.94 であり、翌第 37 週には注意報レベルの 10.00 を、第 43 週には警報レベルの 30.00 を上回り、その翌週（第 44 週）に今シーズン最も大きな定点当たり報告数（34.84）となりました。その後定点当たり報告数は一旦は減少したものの、第 49 週に 2 度目のピーク、更に年明けの 2024 年第 6 週に 3 度目のピークを迎えた後、徐々に減少し、2024 年第 17 週（4 月 22 日～28 日）に 1.00 を下回り流行期が終了しました。

今シーズン病原体定点で採取された検体から検出されたインフルエンザウイルスのうち A 型は AH3 が 460 件、AH1pdm09 が 231 件、A 亜型不明が 2 件、B 型は B ビクトリア系統が 210 件で、B 山形系統は検出されていません（2024 年 5 月 31 日現在）。シーズン開始時から 2023 年にかけては AH3 と AH1pdm09 が混在していましたが、2024 年になると B ビクトリア系統が増加しはじめ、第 4 週以降は B ビクトリア系統が半数以上を占めるようになりました（図1 中棒グラフ）。3 度目のピークは B ビクトリア系統の流行によるものと考えられました。

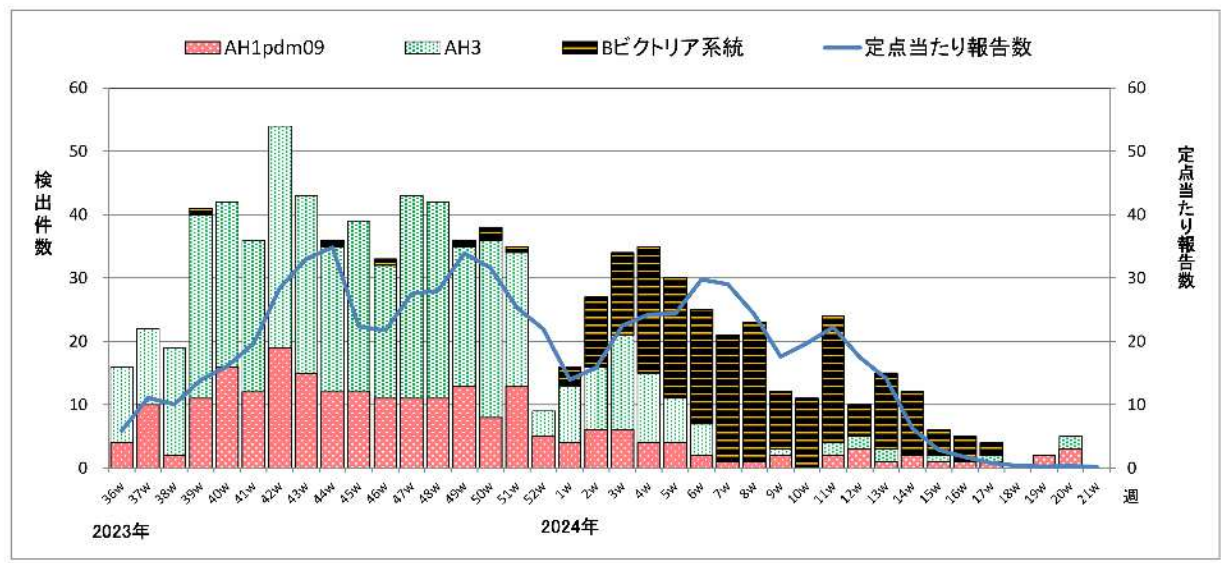


図1 インフルエンザの定点当たり報告数とウイルス検出状況（2023/2024 シーズン）

今シーズンは3つの亜型が混在しており、この検出状況は2018/2019シーズン（図2）に類似していましたが、定点当たり報告数の動向は、明瞭な一峰性でなかった点、また流行の後期においても定点当たり報告数が多い状況が継続していた点で、過去に類を見ない推移となりました。

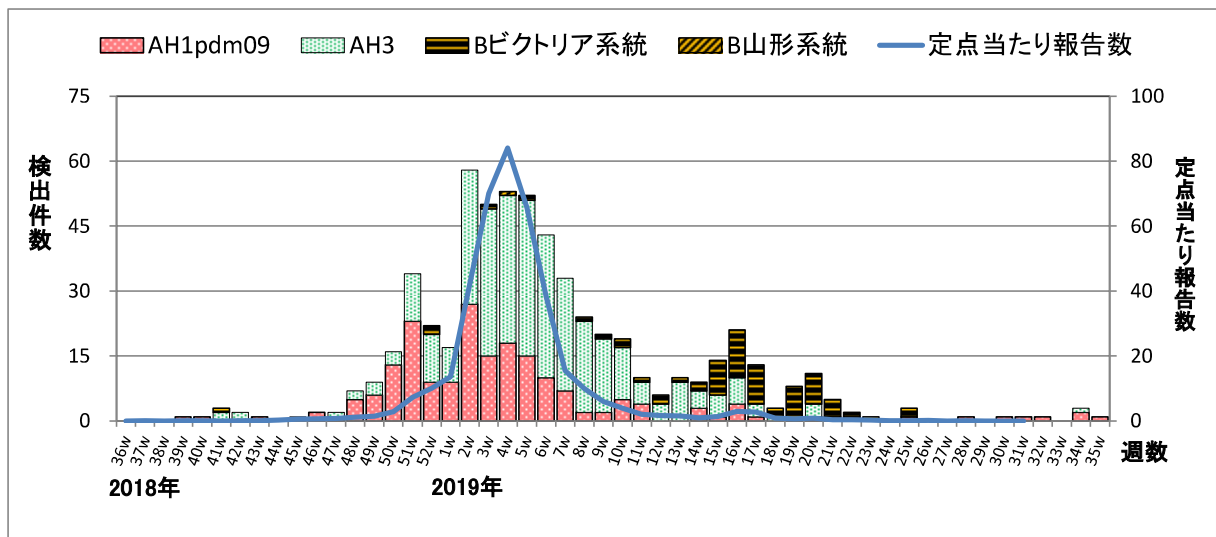


図2 インフルエンザの定点当たり報告数とウイルス検出状況（2018/2019シーズン）

週別、患者年齢階級別のインフルエンザウイルス型別検出数等の詳細は、県感染症情報センターのホームページ（<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/srv-flu.html>）に最新情報を掲載しています。

病原体定点医療機関の先生方には引き続き検体採取へのご協力をお願いします。